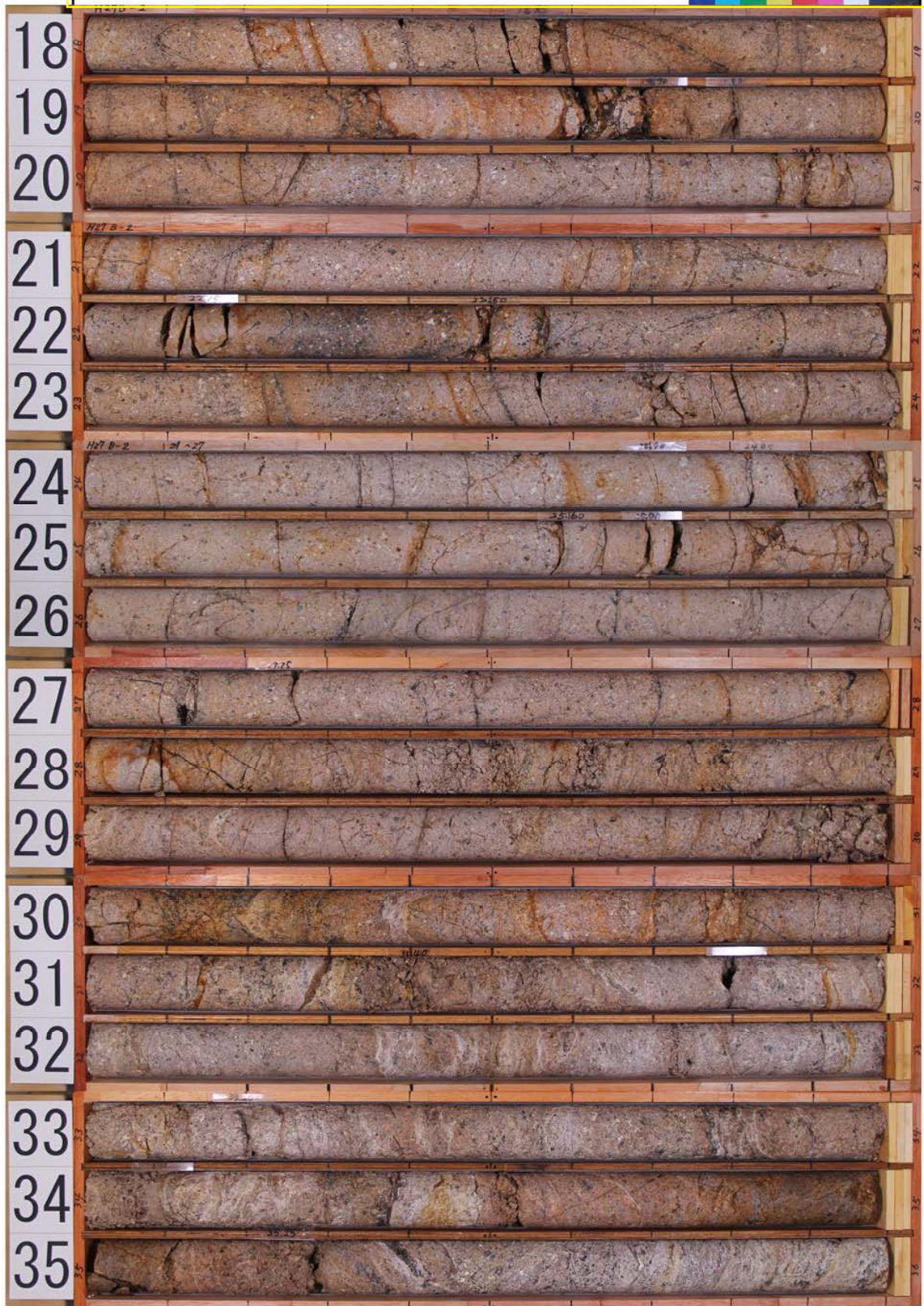


孔番 : H27-B-2

深度 18.00m ~ 36.00m





孔番 : H27-B-2

深度 36.00m ~ 54.00m





孔番 : H27-B-2

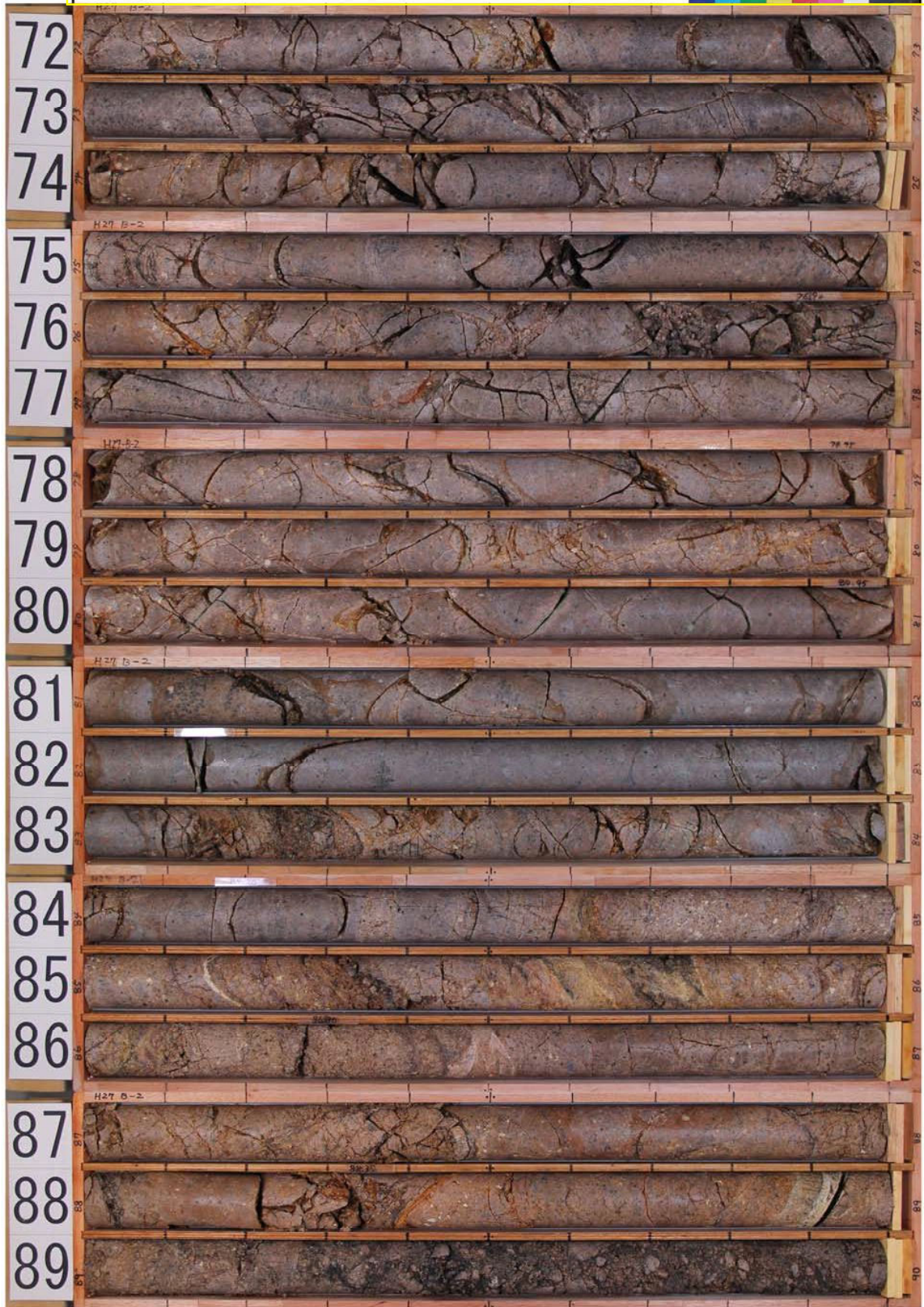
深度 54.00m ~ 72.00m





孔番 : H27-B-2

深度 72.00m ~ 90.00m





孔番 : H27-B-2

深度 90.00m ~ 108.00m





孔番 : H27-B-2

深度 108.00m ~ 126.00m





孔番 : H27-B-2

深度 126.00m ~ 144.00m





孔番 : H27-B-2

深度 144.00m ~ 160.00m





余白



H24-B14-2



余白



ボーリング柱状図

調査名	[Redacted]										
ボーリングNo.											1
事業・工事名	[Redacted]										

ボーリング名	H24-B14-2		調査位置	X:355.111, Y:943.360			北緯	35° 45' 15.46"	
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2012年7月28日 ~ 2012年9月17日		東経	136° 1' 5.76"	
調査業者名	[Redacted]		主任技師	[Redacted]		現代人	コ定者	ボーリング責任者	
孔口標高	7.06 m	角			地盤勾配	鉛直	使用機種	ハンマー落下用具	
総掘削長	150.00 m	度			鉛直	0.0°	エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	標準貫入 (N) 試験		原位置試験 (孔内水平基準)	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア径 (mm) / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
														(N値~深度)	図																
										0.00~6.66m: 盛土 0.00~3.47m: 礫・シルト混じり砂 径5~30mmの角~亜角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。礫に風化礫を含む。礫の分布は不均質で、少ない部分と多い部分が認められる。	0 50 100																				
1																															
2																															
3																															
4										3.47~3.93m: コンクリート 柱状コアで硬質である。																					
										3.93~4.28m: グリ石 径20~40mmの粘板岩の角礫からなる。																					
										4.28~6.66m: シルト混じり硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質な砂にシルトと礫が混じる。礫は径2~30mmの亜角礫を主とし、礫率は10~20%程度。風化礫やクワリ礫を含む。礫種は花崗斑岩が主で、礫に安山岩礫を含む。																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q O D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N 値	図																		
					明褐 褐灰						5.23~5.29m: 有機物混じり砂を挟む。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を含む。全体に若干有機質である。																							
6					明褐																													
		2.35	6.66		盛土																													
7					褐灰						6.66~8.39m: 礫質砂 6.66~8.83m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の水分粘土片を含む。 6.82~8.09m: 細~粗粒砂からなり、 7.43m以下ではシルトが混じる。全体に径2~5mmの細礫が混じる。細礫は角~亜角礫を主とする。礫種は花崗閃岩、アブライト、石英からなる。 6.82~7.65m: 上部はシルト質、下部は礫質となる。 7.10m付近まで径5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も礫状に含む。 7.10~8.09m: 径5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。 7.30m付近、未分解の植物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																							
8					灰						6.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以下は若干の有機物を含む。																							
		1.13	8.39		灰						8.39~8.83m: 砂混じり有機質シルト 8.39~8.53m: 径1.5cmの花崗岩類の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて斜方向に炭化木片を含む。 8.53~8.83m: 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。																							
		0.82	8.83		黒褐						8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。 8.83~9.54m: 有機物混じり砂 8.83~9.10m: 有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を5%未満含む。少量の炭化物を含む。 8.90~8.97m: 生木を含む。 9.10~8.97m: 有機物に富み、一部未分解の繊維が分布する。 9.13~9.15m間は極細粒砂を薄層状に挟む。下部は粒径がやや粗く、砂質シルト~シルト質砂状を呈する。 9.26~9.54m: 細粒砂を主とするが不均質で、径0.5~1cmの石英角礫を含む。粘土分を少量~中位で含む。また、炭化物片、未分解繊維も少量含む。 9.54~11.12m: 砂礫 径2~5mmの花崗閃岩礫が主体。基質は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.77mに径1.7cmの玉石を含む。																							
9					褐灰																													
		0.31	9.54		黒褐																													
					砂礫																													







標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
																	(N値)	(m)	(cm)	(min)	(min)													
				砂礫	暗褐																													
16		-4.42 ~ 16.24		褐灰	Eg																													
17				灰白	Eg		dg	δ			3																							
18				花崗斑岩	明褐灰	Dg	og	γ			3																							
19				灰白	Eg		dg	δ			4																							
					Dg						3																							





標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 ( cm ) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧 電位 )	室内試験	掘進速度 ( cm / 時 )	掘進月日	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )								
															( N 値 )	( 深度 )																			
		26		褐灰		Dg	Vg	dg	2	2	25.88~26.62m: 土砂~礫状を呈する。岩片は径5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものも主体とする。基質はシルト混じり中粒砂で、不規則にマンガンを汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	0	D'																						
		27																												花崗斑岩	にぶい黄緑	Dg	Vg	dg	3
		28		灰褐	にぶい黄緑	Dg	Vg	dg	2	2	27.28~27.62m: 上位に比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、径1~3cmの岩片状を呈する。 27.47~27.62m: 傾斜60~65°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。 27.62m: 傾斜65°で幅1~2mmの黄灰色砂泥じりシルトを不連続に挟む。シルトの原岩組織には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 27.62~27.97m: 網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。 27.92~28.21m: 傾斜60~75°の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜20~25°の割れ目が2cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガンを汚染を伴う。 28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破砕部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端50°、下端50°、径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。 幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり砂状部 (Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅10mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む。 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	D'																						
		29																												明褐灰	にぶい黄緑	Dg	Vg	dg	3
						明褐灰	にぶい黄緑	Dg	Vg	dg	3	Y	28.21~28.50m: 2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。 28.36~28.45m: 傾斜30°程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。 28.45~28.50m: 上端55°、下端50°で原岩組織が不明瞭となる。 ●28.50~28.66m: 破砕部 28.50~28.51m: 礫混じり粘土状部 (Hc-2) 上端50°、下端50°、径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。 幅1~1.5mm。 28.51~28.53m: 粘土混じり砂状部 (Hj) 上端50°で直線的に、下端40°で波打って連続。径10mm以下の岩片主体で岩片間に幅1~2mmの黄灰色粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。 28.53~28.66m: 粘土混じり角礫状部 (Hj) 上端40°で波打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部が分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅10mm。 28.66~28.71m: 土砂状を呈する。 28.71~29.45m: 傾斜40°及び60°の割れ目が2~6cm間隔で発達。交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。 29.16~29.45m: 風化・変質が進み、脆弱である。 29.45~29.91m: 原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。 29.76~29.81m: 硬質部を礫状に含む。 29.81~29.97m: マンガン汚染が拡がる。 29.91~30.21m: 傾斜40~55°の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。	0	D'																				
																														明褐灰	にぶい黄緑	Dg	Vg	dg	3



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 ( % )	岩級区分	( 標準貫入 ) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)													
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( 値 )																						
31				花崗斑岩	明褐灰					3	<p>30.13m: 傾斜30°で幅1mmの黄灰色砂泥じり粘土を挟む。上詰部に幅10~15mmの細片状部を伴う。</p> <p>30.21~32.40m: 傾斜40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚染が認められる。</p> <p>30.28~30.44m: 長さ16cmの柱状コアである。</p> <p>30.62~30.72m: 傾斜40°程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位と比べてやや岩質劣化する。</p>		CL'																								
32														Cg Vg	cg	Y	2	<p>31.55~31.93m: 傾斜40°と65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯する。</p>		CM'																	
														Bg Wg	bg						<p>32.40~32.67m: 傾斜50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに岩質劣化が進む。一部は原岩組織が不明瞭となる。</p>																
														Cg Vg	cg								<p>32.67m付近: 傾斜40~50°の割れ目及び不規則な割れ目が1~3cm間隔で発達し、岩片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片はやや硬質である。</p> <p>32.91~33.01m: 不規則で網目状に割れ目が発達する。</p> <p>33.01~35.14m: 傾斜50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角度割れ目も見られる。一部割れ目沿いに細礫状を呈する。</p>														
Bg Wg	bg	<p>33.72m: 傾斜50°の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コア採取時に大半を流失し、詳細は不明である。</p>																																			
Cg Vg	cg														<p>34.20~34.46m: 割れ目間隔が狭くなり、径1~5cmの細片状を呈する。割れ目沿いには酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。</p>																						
Bg Wg	bg	<p>34.77m: 傾斜60°で幅5~12mmの黄褐~灰白色粘土泥じり砂を挟む。砂は上詰部の割れ目に入ると、砂を挟む割れ目の周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>34.93m: 割れ目沿いに岩質劣化する。岩片にはマンガンが付着する。割れ目のみみ合せは悪い。</p>																																			
Cg Vg	cg														<p></p>																						
Bg Wg	bg																																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 ( N ) 値	標準貫入 ( 試験 ) ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水圧 他 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)																																																																																																		
															0	10	20	30	40											50																																																																																																	
		36	花崗斑岩	明褐灰	灰白	Bg	IIIg	γ	2		35.14~35.74m: 割れ目が不規則割れ目状に発達し、風化・変質により岩質が劣化する。全体に黄色味を帯びる。35.20~35.50m: 不規則に劣化部が分布し、コアは砂礫~細片状を呈する。	0	GM'																																																																																																																		
		37																																明褐灰	Bg	IIIg	γ	2		35.59m: 傾斜50°で幅1~2mmの黄褐~黄灰色粘土混じり砂を挟む。下端側にマンガン汚染が目立つ。 35.64~35.91m: 露出した細状割れ目に沿って酸化汚染が広がる。 35.88~36.09m: 密着割れ目沿いの酸化汚染が認められる。 36.09~36.43m: 傾斜40~50°の割れ目が5~10cm間隔で発達する。 36.43~37.52m: 傾斜50°程度の割れ目の他、不規則に割れ目が分布し、礫~細片状を呈する。割れ目面は黄褐色化する。コア採取時に軟弱細粒物を流失している。	50	CL'																																																																																					
		38																																																															明褐灰	Bg	IIIg	γ	2		37.20m: 岩片に灰白色シルトが付着する。 37.52~37.89m: 割れ目間の岩質劣化が進行し、コアは礫状~細片状を呈する。マサ状部では割れ目や原岩組織がやや不明瞭となる。 37.89~38.10m: 割れ目が幅1cm間隔で網状に発達し、割れ目沿いに酸化汚染が広がる。割れ目の多くは密着するが、ハンマーの軽打で分離する。 ●38.10~38.27m: 破砕部 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端40°、下端50°でともに波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、下部ほどシルト~粘土分を多く含む。38.10~38.19mは灰白色、38.10~38.27mは淡黄灰色を呈する。幅10mm程度の、38.10mにはフィルム状の暗緑灰色の細粒部を伴う。 38.27~38.67m: 微細に網目状割れ目が発達し、割れ目沿いに酸化・マンガン汚染が広がる。 38.67~38.21m: 全体に割れ目や原岩組織がやや不明瞭であるが、割れ目跡は残る。白~淡赤灰色粘土が不規則に分布する。全体に軟質で針貫入可能であるが、一部に硬質礫を残す。	100	D'																																																						
		39																																																																																																明褐灰	Bg	IIIg	γ	2		38.21~41.29m: 傾斜30~50°の割れ目と不規則な割れ目が発達する。割れ目沿いに岩質劣化し、岩片状を主とし、一部にやや硬質部を塊状に残す。割れ目の多くにフィルム状の白~黄褐色シルトを挟む。 39.21~40.13m: 割れ目面の多くは黄褐色化する。	150	CL'																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧 含む )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )																																																		
														N 値	深度																																																													
		41	+	花崗斑岩	明礬灰	Cg	Vg	γ	2	40.25~40.31m: 変質部, 上端40°, 下端50°で斜交する。石英筋の粗砂~細礫を含む灰白色粘土質砂状を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリブ灰色を呈する。	CL'																																																																	
		42								花崗斑岩																			明礬灰	Bg	Vg	δ	3	41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目が1~10cm間隔で発達し、細片~短柱状を呈する。	CM'																																									
		43																																花崗斑岩																			明礬灰	Cg	Vg	γ	2	41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	CM'																	
		44																																																								花崗斑岩																		
		45																																花崗斑岩																			明礬灰	Cg	Vg	γ	2		43.00~43.51m: 不規則に岩芯まで風化・変質が進行し、コアは稀灰~オリブ灰色を帯びる。	CM'																
		46								花崗斑岩																			明礬灰	Bg	Vg	δ	3		43.51~43.81m: 強く風化・変質し、一部に硬さ10°の岩片を残すが、多くは斜貫入可能である。上端には傾斜50°で幅3~10mmの明赤灰色の砂凝りシルトが分布する。	CL'																																								
		47																																花崗斑岩	明礬灰																		Cg	Vg	γ	2	43.81~44.09m: 上位と比べて風化・変質の程度は弱い。傾斜80°以上の割れ目に沿って土砂化するほか、網状に割れ目が発達し、コアは脆弱である。			CL'																
		48								花崗斑岩																			明礬灰	Bg	Vg	δ	3			44.09~44.25m: 傾斜15°程度の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質劣化するが、岩片は硬質である。下端の傾斜52°の割れ目には幅4mmで明褐色の砂・細礫混じり粘土を挟み、周囲には白雲母が露出する。	CL'																																							
		49																																花崗斑岩	明礬灰	Cg																	Vg	γ	2	44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、礫~細片状を呈する。岩片はやや硬質なものが多いが、一部は指圧で磨せるほど軟質となる。				CL'																
		50								花崗斑岩																			明礬灰	Bg	Vg	δ	3					CL'																																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D ← [ % ]	岩級区分	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		孔内水位 / 測定月日	原位置試験 ( 孔内水圧 電圧 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN / MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )				
														N 値	試験																
		46	花崗斑岩	褐灰							45.00~45.20m: 風化・変質を強く受け、割れ目や原岩組織の一部が不明瞭となる。	CL'																			
											Eg Vg dg δ 3																			45.20~45.90m: 傾斜50°~60°の割れ目が2~10cm間隔で発達し、岩片状~柱状を呈する。割れ目には黄褐色土状物質を挟在することが多い。	U7 112
											Bg Vg γ 2																				
											Cg																				
											Dg Vg δ 3																			45.90~47.37m: 風化・変質をやや強く受け、一部の割れ目や原岩組織はやや不明瞭となる。全体に1~3cm間隔で網状の割れ目が発達する。ほとんどの割れ目に灰白~黄褐色の変質粘土を挟在する。	
											Dg Vg γ 3																			46.07m: 傾斜35°で幅12mmの明黄褐色シルト質砂を挟む。	
											Dg Vg γ 3																			46.10~46.17m: マンガン汚染し、割れ目や原岩組織は不明瞭である。コアは短い。	
											Dg Vg γ 3																			46.20m: 傾斜83°で幅1~6mmの灰白色砂泥じりシルトを挟む。	
											Dg Vg γ 3																			46.74m以深は変質の程度がやや弱く、上位と比べて割れ目間隔が広がる。	
		47									Cg Vg 2																			47.03m: 傾斜34°で幅3mmの灰白色砂泥じりシルトを挟む。	
											Dg Vg dg δ 3																			●47.37~47.40m: 破砕部 粘土泥じり礫状部 (Hj) 上端40°、下端45°でともに凹凸して連続。径2~5mm程度の岩片主体である。下端付近に幅1~3mmの暗灰色粘土を挟在する。灰白~褐色を呈する。幅20~25mm。	
											Cg Vg γ 2																			47.40~49.24m: 全体に変質し、シルト泥じり砂礫状を呈する。岩片は硬質であるが、網目状に灰白色の粘土~シルトが分布し、全体として脆弱である。	
											Dg Vg γ 3																			47.53m: 傾斜50°で幅3mmの灰白色変質粘土を挟む。	
											Dg Vg γ 3																			47.70~48.87m: 傾斜80°~90°の割れ目沿いに著しく変質し、粘土~土砂化する。	
											Dg Vg γ 3																			48.09m: 傾斜72°で幅3~5mmの灰白色のシルト質砂を挟む。	
											Dg Vg γ 3																			48.09~48.86m: 網状に変質粘土断が発達し、粘土質砂礫~細片状を呈する。岩片に風化変質は認められない。	
		49	Eg Vg dg δ 3		●49.24~49.55m: 破砕部 49.24~49.26m: 硬質粘土断 (Hc-2) 上端20°で凹凸する。下端35°。上端は灰白色で、下端に向かって灰色に落移する。幅15~25mm。 49.26~49.42m: 粘土泥じり砂礫状部 (Hj) 上端25°で直線的に連続。下端50°で波打って連続。径2~10mmの岩片主体で、岩片間に粘土細断が傾斜40~60°で分布する。変質が進み、緑灰色を呈する。																										
			Cg Vg γ 2		49.42~49.45m: 粘土質礫状部 (Hc) 上端50°で波打って、下端20°で直線的に連続。上下端に幅0.3~5mmの暗灰色粘土を伴う。径2~10mmの粘土化した岩片主体である。灰白色を呈する。幅10~20mm。																										
			Cg Vg γ 2		49.45~49.55m: 粘土泥じり礫状部 (Hj) 上端20°、下端35°でともに直線的に連続。径5~10mmの岩片主体で岩片間に灰白色の粘土断が分布する。淡赤灰色を呈する。																										
			Cg Vg γ 2		49.50m: 砂泥じり粘土断 (Hc-2) 傾斜45°で、幅5~8mmの白~淡赤灰色砂泥じり粘土を挟む。																										
			Cg Vg γ 2		49.55~49.64m: 風化・変質により、コア表面が粗く、脆弱である。																										
			Cg Vg γ 2		49.64~50.50m: 傾斜40°~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達するほか、傾斜75°以上の高角割れ目が分布する。コア採取時に乱し、径1~5cmの細片状を呈する。																										



標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コ ア長 R Q D L [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) 測定月 日	試験						原 位 直 接 試 験 (孔内水圧 計)	室 内 試 験	掘 進 月 日	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) ／ 孔 壁 保 護	コ ア チ ュー プ ／ ピ ェ ッ ト	給 圧 (kN· rpm) (MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
														(標準貫入) 試験 (N値～深度) 図																										
		28.65	50.50	花崗斑岩	褐 灰	Cg	Vg	og	γ	2		CL'																												
	51			コア欠如						50.50~51.43m: コア欠如																														
	52	29.31	51.43		褐 灰	Dg	Vg	og	γ	3 51.43~52.36m: 傾斜55~75°の割れ目が0.3~2cm間隔で発達し、細片~岩片状を呈する。全体にやや変質し、長石類は細酸化し、灰色を帯びる。 51.89~51.92m: 傾斜40°で幅17mmの細灰色シルト・細礫混じり砂を挟む。																														
	53			花崗斑岩	明 褐 灰	Dg	Vg	og	γ	2 52.36~52.92m: 傾斜25~50°の割れ目が0.5~5cm間隔で発達する。 52.50~52.52m: 傾斜20°で幅10~20mmの暗灰色の礫混じり粘土を挟む。スライムの可能性が高い。																														
				明 褐 灰	Dg	Vg	og	γ	3 52.92~53.33m: 上位と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や原岩組織が不明瞭である。 53.33~53.35m: 上下端15°程度で幅20~25mmの変質部。上部は幅5~15mmの粘土質砂塊状、下部は幅5~15mmの砂・細礫混じり粘土状を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は細目状に分布し、土質境界・下部境界は不明瞭である。原岩組織が認められ、せん断構造・変形構造は認められない。																															
	54			褐 灰	Bg	Vg	og	β	2 53.35~53.82m: 傾斜25°及び45°の割れ目が5~20mm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全ての割れ目にフィルム状の白色粘土を挟む。 53.82~54.48m: 傾斜30~50°及び80°の密着割れ目が3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの酸化汚染は軽微である。																															
				明 赤 灰	Cg	Vg	og	γ	2 54.48~55.40m: 上位に比べて割れ目沿いの褐色化が見られる。微細な割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密着し亀甲状を呈する。割れ目によって風化が進む。																															

標 尺 (m)	標 高 度 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 調	硬 軟 状 態	コ ア 形 状	割 れ 目 の 状 態	風 化 質	記 事	コ ア 採 取 率 (%) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩 級 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 日 付	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深 度 ) 図		原 位 直 試 験 ( 孔 内 水 圧 感 應 )	室 内 試 験	掘 進 日 時	掘 進 速 度 (cm/時)	孔 径 (mm) / 孔 壁 保 護	コ ア チ ュ ー プ / ビ ッ ト	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																						
														N 値	( )																																																																
56				明赤灰	Cg	Vg	og	γ	2	55.40~55.84m : 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。一部やや硬質の岩片が残留する。長石類は変質し、全体として赤色を帯びる。割れ目も上下位に比べて多くなり、亀甲状を呈する。全体にマンガン汚染が見られる。	CL'		0	10	20	30	40	50	56.84~56.62m : 上位に比べて風化による劣化は軽微となる。傾斜45°及び水平方向の割れ目が見られる。若芯は新鮮部がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。	CM'	Bg	IVg	bg	2	56.62~56.42m : 上位と比べてやや変質を受け、割れ目及び割れ目周辺に暗緑色鉱物が見られる。	Bg	IVg	Bg	IIIg	IVg	2	57.42~57.69m : 変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。	Dg	Vg	og	3	57.69m : 割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺に微細な割れ目もマンガンに汚染される。	Cg	Vg	γ	2	57.69~58.00m : 上位に比べて変質は軽微となる。	Bg	IVg	bg	2	58.00~58.50m : 上下位に比べて岩質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化汚染はほとんど見られない。	Dg	Vg	og	3	58.50~58.78m : 長石類は緑色鉱物に変質し、やや軟質である。傾斜30°程度の割れ目が主体である。	Cg	Vg	og	3	58.78~59.05m : 上位と比べて変質は軽微であり、やや硬質である。	Dg	Vg	og	3	59.05~59.25m : 上下位に比べて変質し、やや軟質である。長石類は緑泥石化する。	Cg	Vg	og	3	59.25~60.85m : 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び暗緑色鉱物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.62mでは割れ目沿いに褐色化し、褐色鉱物脈が付着。または残存する。全体に割れ目沿いの細片化が見られる。	Cg	Vg	og	3								



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 ( % ) 最大コア長 ( cm ) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 ( m ) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )											
															N	値																						
				花崗斑岩	赤灰	Cg	γ	2																														
		35.83	60.65																																			
	61			明黄褐		Es	δ	4			●60.85~61.12m: 破砕部 粘土混じり角礫状部 (H) 上端40°, 下端50°でともに直線的 に連続。径5~30mmの硬さ「G」の角 礫からなる。明黄褐~緑灰色を呈す る。 61.12~63.47m: 傾斜30~40°及び70° の割れ目と、これらに斜交する微 細な割れ目が見られ、一部龜甲状を 呈する。連続する割れ目は全て酸化 汚染を受け、褐色化する。岩芯には 新鮮部が見られる。割れ目沿いに細 片化、一部で細粒化する。																											
	62					Vg																																
				花崗斑岩	赤灰	Cg	γ	2																														
	63			褐灰		Dg	δ				62.97~63.09m: 割れ目が密集し脆弱 である。下端には傾斜45°で幅1~2m の緑灰色粘土を挟む。																											
						Cg	γ				63.47~64.15m: 幅5~10cmの割れ目 間隔で上位と比べて広い。割れ目沿 いに細片化が認められる。																											
	64					Bg	β				64.15~64.82m: 傾斜40~50°の割れ 目が3~10cm間隔で分布し、これらと 平行もしくは斜交する潜在割れ目が 発達する。潜在割れ目は容易には分 離しないが、ハンマーの打診でやや 鈍い音を発する。 64.25~64.51m: 上端45°, 下端60° 程度で壊されて変質が進む。																											
						Wg	bg	3																														
						Cg	γ				64.82~65.32m: 傾斜30~45°と70° の割れ目が1~3cm間隔で発達する。 低角度割れ目沿いに変質し、白雲母 を伴う。																											
						Vg	2																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧) 値	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
																N	値																			
					明褐灰	Cg	Vg	bg	γ	2																										
					明褐灰	Eg	Vg	dg	δ	3	65.32m: 傾斜45°でフィルム状~幅5mmの灰白色砂泥じり粘土を挟む。 65.32~65.86m: 風化・変質し、散骨化する。割れ目治いに顕色し細粒化する。一部に褐色化も見られる。有色鉱物間隙部も褐色化する。 65.67~65.86m: コア全体が顕色し、灰白~浅黄色を呈する。																									
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	2																										
					明褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3																										
					明褐灰	Cg	IVg				65.85m: 傾斜34°で幅1mmの灰白色粘土を挟み、マンガン濃集を伴う。 65.86~66.06m: 不規則に潜存割れ目が発達し、ハンマーの打撃で分離しやすい。 66.06~67.39m: 傾斜30~50°の割れ目が2~15cm間隔で分布し、それと斜交する傾斜65°以上の高角度割れ目が発達する。 66.06~66.81m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで褐色化が認められる。																									
					褐灰	Bg				2																										
					褐灰	Bg	IVg				66.86m: 傾斜45°で幅15mmが顕色し、散骨化する。 66.90m: 傾斜45°で幅1mmの淡黄褐色砂泥じりシルトを挟む。																									
					褐灰	Cg																														
					褐灰	Dg	VIg	cg	δ	3	67.38~67.51m: 上端35°、下端20°で閉まれ、風化・変質を強く受け、指圧でほくせるほど軟質である。 67.51~68.23m: 傾斜50~70°の割れ目が2~5cm間隔で交錯し、細片状を呈する。また、高角度の潜存割れ目も全体に発達する。割れ目治いに細片化する。																									
					黄灰	Dg	cg			3	68.23~68.63m: 上端50°の割れ目、下端はコアの昇降部で不明であるが、この間、風化・変質が著しい。層岩組織は不明瞭となるが、割れ目跡は残る。含まれる礫に定向配列は見られない。 68.23~68.33m: 細目状に変質粘土層が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目跡は残る。 68.42~68.63m: 土砂~角礫状を呈する。マンガン汚染で塊状化するが、礫に定向配列は見られない。 68.48~68.57m: コアはオリブ灰色を帯びる。 68.63~70.03m: 傾斜40~50°程度の割れ目及び潜存割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目治いに岩質劣化し、細粒化~細片化する。潜存割れ目はハンマーの打撃で分離しやすい。上下位と比べて強く風化・変質し、コアの一部は指圧で崩せる。 69.19~69.22m: 上端50°、下端45°で幅30mmの明黄褐色のシルト混じり砂礫状を呈する。上下端に幅1mm程度の灰白色砂泥じりシルトを伴う。 69.42m, 69.72m, 69.80m: 傾斜40~45°で幅0.3~1mmの細オリブ灰色粘土を挟み、白雲母を伴う。 69.96~70.00m: 傾斜75°以上の高角度変質部で指圧で容易に崩せる。全体にマンガンを伴う。																									
					褐灰	Dg	Vg	cg	δ	3																										



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																			
		71									70.03~70.33m: 割れ目が多く、それに沿って割れるため原岩組織は不明瞭となる。全体に軟白色粘土細断が分布し、やや軟弱となる。一部は指圧で崩せる。 70.03~70.14m: マンガンが濃集する。 70.16m: 傾斜70°の割れ目を破断が認められる。割れ目には粘土物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。 70.33~70.88m: 傾斜40°程度の割れ目が卓越し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところでは変質がやや進む。 70.88~71.05m: 上位と比べて風化・変質し、軟質化する。 70.88~70.93m: 上位はコア昇降により不明。下層は傾斜45°で変質で指圧で変形するほど軟質化し、網目状粘土が発達するが、原岩組織は認められる。 71.32~71.79m: 上下位に比べて変質が進み、コアの表面は粗い。																								
		72									71.79~72.14m: 傾斜40~60°の割れ目が発達し、一部粗片状となる。割れ目沿いに細粒化し、酸化・マンガン汚染も認められる。 72.14m: 傾斜40°で幅1~2mmの灰~褐色砂泥シリントを挟み、白雲母を伴う。 72.14~72.90m: 傾斜20~30°の割れ目が1~10cm間隔で発達する。割れ目沿いに岩質劣化する。 72.70~73.00m: 傾斜80~90°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 72.90~73.53m: 傾斜50°及び70°以上の高角度割れ目が5~10cm間隔で発達する。 73.00~73.13m: やや変質し、褐色化する。 73.13m: 傾斜40°の割れ目は褐色化し、周囲も斑状に褐色化する。 73.53~73.74m: 傾斜40°の割れ目が1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに変質する。割れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。 73.62~73.63m: 傾斜40°で幅10mm程度が変質により褐色色を帯びる。有色鉱物は褐色化し、全体に軟質化する。 73.74~74.95m: 傾斜40~50°の割れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目面はわずかに緑灰色化するが、岩芯は新鮮である。																								
		73																																	
		74																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D [ m ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアクチュール / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )																																	
															N 値	深度																																												
		76	* * * * *	明礬灰		Vg	Bg	IVg	bg	Y	75.24~75.91m: 傾斜40°及び75°程度の割れ目が発達し、それらと斜交する潜在割れ目が分布する。割れ目及び潜在割れ目沿いに岩質劣化し、上下位と比べてやや脆弱である。75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmが土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。	14 (14)	14	0.00																																														
		77																															* * * * *	アソソライト	Bg	Bg	IVg	bg	2	75.91~77.91m: 傾斜40~60°の割れ目が5~20cm間隔で分布し、割れ目沿いに棕色する。割れ目面はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。わずかに黄鉄鉱も付着する。 76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。 76.65m: 傾斜50°で幅3~5mmの石英脈を挟む。	14 (38)	14	0.00																	
		78																																																									* * * * *	明礬灰
		79																															* * * * *	褐灰	Vg	Bg	IVg	bg	3	79.14~79.79m: 傾斜40~50°の割れ目が1~3cm間隔で発達する。割れ目沿いに棕色・細粒化が進む。コア採取時に細粒物を流失する。 79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を挟む。 79.64~79.79m: 割れ目沿いの褐色化が目立つ。 79.77m: 傾斜40°、幅9mmで灰白~暗褐色のシルト質砂状に炭質するが、硬質である。 79.78~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目が3~8cm間隔で分布する。割れ目面の一部はオリーブ灰色を呈し、白雲母を伴う。割れ目沿いに棕色する。	10 (10)	10	0.00																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															(N 値 ~ 深度)	図												
		81	* * * * *	アソサイト	褐灰	IV g	IV g	β	2		80.63~81.47m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が発達する。割れ目は凹凸し、風化・変質、挟持物は認められない。		CM'															
		81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mmで黄鉄鉱が付着する。																										
		81.40~81.76m: 傾斜30~50°の割れ目が交錯し、コアは一部細片状を呈する。割れ目沿いに細片化し、コアのかみ合せが悪い。																										
		81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。																										
		81.99m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。																										
		82.13~83.59m: 上位と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が分布する。割れ目は炭灰~オリブ灰色を呈し、白雲母、黄鉄鉱の付着が認められる。割れ目及び潜在割れ目沿いに染色する。																										
		82.33m, 82.36m: 傾斜40°で幅1~2mmの石英脈を挟む。																										
		82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が密集し、割れ目沿いの一部で細片化する。白雲母、黄鉄鉱の付着が目立つ。																										
		83.59~83.88m: 傾斜30~50°の割れ目が4~10cm間隔で発達し、不規則な高角度の潜在割れ目が分布する。上位と同様に割れ目沿いの染色が認められるが、より明確に認識できる。																										
		83.88~84.54m: 上位より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。																										
		84.16~84.45m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が認められるが、連続性が悪い。																										
		84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の微晶が晶出する。																										
		84.54~85.14m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~細粒化する。																										
		84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~幅1mmの方解石英を伴う。																										
		84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2cm程度と密になり、上下位と比べて変質が進み、やや軟弱となる。																										
		84.91~84.94m: 傾斜45°で幅25mm程度が露出し、灰白色粘土が割れ目状に分布する。																										
		84.83																										



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧 基準 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )				
															N 値	深度															
															0	10															
		86					Cg	Vg	cg	γ	3																				
								IIg			85.06~89.74m: 傾斜30~40°の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。 85.14~85.64m: 割れ目面の変質は認められない。 85.28m: 傾斜35°で幅1.5mmの石英脈を挟む。 85.59~86.28m: 傾斜60~70°の密着割れ目が発達し、それに沿って脱色する。一部は開口し、細片化を伴う。																				
								IVg			85.96~87.52m: 傾斜80°以上で湾曲する割れ目が複数分布する。割れ目沿いに細片化~細粒化する。86.58~87.00m間は岩質劣化部を伴う。																				
								IIg			86.50~86.58m: 高角度割れ目面に柱状の石英が晶出する。																				
		87						IIg																							
							Bg	bg	β	2	87.61m以深、傾斜40~60°の割れ目が多くなる。 87.61~88.31m: 傾斜40~60°の割れ目や潜在割れ目が分布し、それらに沿って脱色する。割れ目面はオリブ灰色を帯びる。 87.73m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																				
								IIg			88.22m: 傾斜43°の割れ目は暗オリーブ灰色を呈し、柱状の石英が晶出する。 88.22~88.30m: 微細な有色鉱物を多く含み、コアは暗色を帯びる。																				
								IIIg																							
								IVg			88.90~89.09m: 傾斜45°程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目沿いに細片化する。わずかに脱色が認められる。 89.09m, 89.42m, 89.55m: 傾斜43~50°の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が晶出する。割れ目面は緑灰色化する。																				
								IIIg																							
								IIg																							
								IVg			89.74~90.56m: 傾斜35~55°の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で細片状を呈する。																				

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水平載荷 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															( N ) 値	( 深度 ) 図													
		91	* * * * *	アソサイト 褐灰	褐灰	Bz	Bg	β	2		90.08~90.56m : 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。	90.44m : 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。	0 50 100		0 10 20 30 40 50														
		91.08~91.13m : 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細礫状を呈する。									91.13m : 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																		
		91.48~91.63m : 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。									91.53~92.00m : 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。																		
		92.13m : 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。																											
		93.64m : 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																											
		94									94.10~94.63m : 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	94.24m : 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色砂質粘土を挟む。	94.34m, 94.37m : 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水圧 含む )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																		
															N 値	10	20	30	40												50																																	
		96	* * * * *	褐灰			bg			2	95.07~96.03m : 傾斜10~50° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	CL'																																																				
											明褐灰																								Vg			3	95.34~95.43m : 細かい割れ目が発達し、細礫状を呈する。 95.36m : ほぼ鉛直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。																									
																																							Dg																								Vg	dg
											Dg																						Vg	cg			3	97.50~98.09m : 傾斜45~70° の割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。																										
																																						褐灰																										Bg
											明褐灰																								Bg	mg				2	98.28~100.40m : 不規則な割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。	CL'																						
				明褐灰			Bg	mg		2		99.61~99.66m : 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。																																																				
											明褐灰																							Bg	mg		2			99.94m : 傾斜25° で幅5mmの橙色の力り長石が脈状に分布する。																								



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水深 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)											
															N 値	0	10	20	30												40	50									
		101		明徳灰	Bg	Vg	bg			2																															
					Dg	Vg	dg				3	100.40~100.52m: 細かい割れ目が発達し、変質を受け、やや軟質で、礫状~土砂状を呈する。																													
					Bg	Vg	bg				2																														
					Vg	og					3	100.75~101.03m: 変質が明確で、やや軟質である。																													
					Dg	Vg	dg				3	100.90~101.03m: 細かい割れ目が発達し、ほぼ土砂状を呈する。																													
					Cg	Vg	cg				2																														
					Eg	Vg	eg				3																														
					Eg	Vg	dg				4	●101.47~101.52m: 破砕部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (H)																													
		102				褐灰	Vg	bg				2	傾斜25°で直線的に連続。下部に灰白色のフィルム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。変質が進み、灰白色を呈する。幅30mm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂状部 (H) 土質25°。下部20°で直線的に連続。径20mm以下の岩片主体。灰白~明褐色を呈する。幅20mm。 102.11~103.92m: 径1~3cm程度のカリ長石の大型結晶が目立つ。																												
					Bg		Vg	bg				2	102.55~102.94m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片~細礫状を呈する。																												
			Cg	Vg	cg					3	102.94~103.11m: 細かい割れ目が発達し、褐色に変質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土を帯状に伴う。 103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の結晶が目立つ。 103.11~103.92m: 傾斜20~60°の割れ目が多く、傾斜5~10°の潜在割れ目が発達する。全体に弱く変質する。																														
		103		明徳灰	Vg	bg				2	103.92~104.61m: 潜在割れ目も少なく、短柱状コアを主とする。																														
			Cg		Vg	cg				3	104.44~105.54m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状を呈する。 104.47~104.65m: 径3~10mmの褐色のカリ長石の結晶が目立つ。																														
		104		褐灰	Bg	Vg	bg			2																															
			Bg		Vg	bg				2																															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水圧) 値	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															(N)	(m)												
							Bg	Vg	bg	2																		
106				暗緑灰			Eg	Vg	dg	4	●105.54~105.61m: 礫部シルト混じり砂礫状部 (Hj) 上端45°, 下端25° ともに直線的に連続。径30mm以下の岩片主体で灰白色粘土が脈状に分布する。変質が著しく、暗緑灰色を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~礫状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に変質が見られる。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	106.48~106.49m: 傾斜15°, 傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を挟み、白色鉱物を伴う。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	106.68~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰白色砂・細礫混じり粘土を挟む。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	106.78~106.83m: 傾斜15°のドライト脈を挟む。やや基質が粗粒で方解石の細脈が見られる。アブライトとの境界は明瞭である。アブライトよりは軟質である。高角度の割れ目にも貫入している。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	106.78~106.80m: 傾斜50°のドライトの変質部で、暗緑灰色の粘土質砂・細礫状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	106.91~106.92m: 不規則な形状のドライト脈で、106.83mのドライト脈と高角度割れ目の細脈で連絡する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	107.12~107.29m: 傾斜45~90°の湾曲した割れ目が多く、角礫状を呈する。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	107.29~107.45m: 砂~細礫状を呈し、灰白色粘土脈が網目状に分布する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	107.30~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗緑灰色変質部で砂状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	幅1mm以下の暗緑灰色粘土を不連続に挟む。変質部に含まれる岩片に定向配列は見られない。暗緑灰色粘土は分岐し、黄鉄鉱を伴う。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	107.45~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角礫状を呈する。割れ目沿いに変質が進む。高角度の割れ目沿いに変質が進み、シルト質砂礫状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	108.29m: 傾斜57°で幅1~2mmの灰白色の方解石脈を挟む。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	108.33~109.16m: 全体に変質を受け、暗緑灰~明緑灰色を呈する。原岩組織はやや不明瞭である。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	108.94m: 傾斜50°で幅0~8mmの方解石脈を挟む。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	4	●109.16~109.46m: 礫部109.16~109.10m: 細礫混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜75°。明緑灰色を呈する。幅2~10mm。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	109.18~109.30m: 粘土質礫状部 (Hb) 傾斜75°で直線的に連続。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。変質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	2	109.30~109.32m: 礫混じり粘土状部 上端75° 下端60°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	109.32~109.46m: 粘土混じり礫状部 (Hj) 上端80° でやや波打って、下端80° で湾曲して連続。下端には幅1mmの白色粘土を伴う。径2~30mmの礫主体で細粒部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	109.46~109.70m: 礫部の下端側は変質を受け、にぶい橙色を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。																	
				暗緑灰			Bg	Vg	bg	3	109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を挟む。																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D └─ [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ) 試験 ( N値~深度 ) 図						原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														N	値	0	10	20	30												40	50								
										110.12~110.78m: 傾斜30~50°の割れ目が密集し、細礫状を呈する。																														
	111						Cg	cg	2																															
							Dg	Vg	4	110.80m, 110.85m: 傾斜50°で幅0~1mmの方解石脈を挟む。 110.95~111.16m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。礫状~細礫状コアからなり、フィルム状の白色粘土が網目状に分布する。																														
							Cg	bg	2																															
							Dg		3																															
	112						Cg	cg	2	111.78~111.96m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細礫状を呈する。一部白色粘土が網状に分布する。 111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂泥じり粘土を挟む。																														
							Dg	Vg	3	112.28~112.46m: 傾斜40~50°の割れ目が2cm~2cm間隔で密集し、変質する。																														
							Bg	IVg	bg	2																														
	113						Cg	Vg	cg	3	113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細礫状を呈する。 113.52~113.82m: 全体に弱く変質する。 113.58m, 113.64m: 傾斜46°, 48°の割れ目に幅1mmで黄鉄鉱が晶出する。																													
							IVg		2																															
							Bg	bg		114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。 114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~礫状を呈する。																														
							Vg																																	



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図		原位置試験 (孔内水蒸気)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
															N 値	( ) 図																			
			* * * * *	アンソナイト	褐灰	Bg	vg	β	2		115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。	7 [0]	CL'																						
						Cg				116.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。	8 [0]																								
										117.00~117.30m: 径5~10mmの棕色のかり長石、炭黒灰色の長石の斑晶が目立つ。	9 [0]																								
										117.37~117.50m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで黄鉄鉱が晶出する。緑泥石、方解石を伴う。	10 [10]																								
										Bg	117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状~礫状を呈する。	7 [0]																							
						vg					118.83~118.92m: 主に礫状を呈する。	7 [0]	CL'																						
						vg					119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	7 [0]																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図					原位置試験 (孔内水・貫入)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															N	0	10	20	30												40	50					
			* * * * *								120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに岩片化する。	4 (0)																									
121			* * * * *		Bg						120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。																										
			* * * * *								121.08~121.50m: 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	6 (0)																									
122			* * * * *		Cg						122.18~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目沿いに一部散質化する。白色化するが、変質粘土は伴わない。	4 (0)																									
			* * * * *								122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下端部が幅2cmで径さ10に散質化する。																										
123			* * * * *								122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。																										
			* * * * *								123.39m: 傾斜70°で幅6~10mmの粘土混じり塊状部を挟むが、塊の回転や移動はしていない。下端部の傾斜70°の割れ目面には幅0.5mm以下の暗緑色粘土と黄鉄鉱が晶出する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ直交する幅20mmの岩片状部が分布し、下端部の割れ目面の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の黄鉄鉱が晶出する。	4 (0)																									
124			* * * * *								124.59~124.89m: 互いに直交する傾斜約45°の割れ目が分布し、径1~3cmの岩片状を呈する。白色化した底部割れ目から分離・岩片化したものと推定される。	6 (0)																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D cm L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入試験 (N値~深度) 図				原位置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ (ビット)	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																				
															N	0	10	20																															
126				褐灰		vg	vg					CL'																																					
				灰赤			bg																																										
				アソライト			og																																										
				灰褐			Bg																																										
127																																																	
128																																																	
129																																																	



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 ← cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日 (N) 値	標準貫入 ( ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水位 観測 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															0	10	20	30	40												50	
131	85.57	131.00	アブライト	アブライト	灰褐色	Bg	Vg	bg	β	2	130.16m: 傾斜35°の割れ目の一部が褐色に風化するが、劣化は伴わない。130.16m以深では、径2~3mmの長石の一部が白濁化する。	0	5	10	20	30	40	50														
131.00~132.00m: コア欠如																																
132	86.28	132.00	アブライト	アブライト	灰褐色	Bg	Vg	bg	β	2	132.00~133.46m: 割れ目と隣密着割れ目が1~3cm程度の間隔で沿に分布し、径1~3cm程度に岩片化した部分を多く含む。変質と風化による劣化はないが、133.46mの傾斜10°の割れ目には径1mm程度の暗緑色粘土を挟む。132.00~132.65mと133.10~133.30mは、径1~2cmの岩片状を呈する。	0	5	10	20	30	40	50														
133	87.69	134.00									133.57~134.00m: 割れ目沿いに長さ5mm前後の細砂状を呈する部分が多い。裸に粘土は付着しない。																					
134	87.69	134.00	アブライト	アブライト	灰褐色	Bg	Vg	bg	β	2	134.00~135.00m: コア欠如	0	5	10	20	30	40	50														
134	88.40	135.00																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 ( kN · MPa )	回転数 ( rpm )	送水圧 ( MPa )	送水量 ( L / 分 )	排水量 ( L / 分 )					
															N 値	0	10	20	30												40	50			
		88.75		アフライト	灰褐色	Bg	Vg	bg	β	2	135.00~135.50m: 傾斜10~30°の割れ目が1~2cm間隔で分布し、岩片状を呈する。割れ目に粘土付着や粘土脈の存在はない。		CL'																						
		89.11		コア欠如							135.50~136.00m: コア欠如																								
136		89.46		アフライト	灰褐色	Bg	Vg	bg	β	2	136.00~136.30m: 径1~2cm程度の岩片状を呈する。岩片に粘土は付着しない。																								
		89.64		コア欠如		Dg	Wg	dg		3	136.30~136.50m: スライムを多く含む。																								
		89.64		コア欠如							136.50~136.75m: コア欠如。部分的に粘土状のものを含む。																								
137											136.75~137.00m: 径1~2cmの岩片からなる。																								
						Cg		cg		3	137.00~138.42m: 全体に緑泥石化により緑色を帯びている。概ね1~3cm間隔で傾斜10~30°の割れ目と、これと斜交する傾斜40~50°の割れ目が発達する。微小の黄鉄鉱が晶出する。上記の両割れ目系の交差部の一部や、137.67~137.73mの傾斜45~50°の割れ目沿いでは、径1cm前後の塊状を呈し、暗緑色粘土が付着する場所があるが、塊の回転や移動は見られず、定向配列もしていない。																								
138											138.21~138.42m: 変質した割れ目密集部で原岩組織は認められる。割れ目には暗緑色鉱物が付着し、全体に緑色を帯びる。																								
						Dg	Vg	bg	β	4	138.38~138.42m: 上位に比べて軟質化し硬さ「E」となり、細粒化する。脈状の粘土は伴わない。																								
						Bg		bg			138.42~140.04m: 傾斜50~60°と、これと斜交する30°程度の割れ目が発達する。																								
											138.63~138.66m: 上下位に比べて軟質で硬さ「E」となり、緑色を帯び細粒化する。脈状の粘土は伴わない。																								
139						Cg		cg		2	139.21~139.50m: 強く変質し、割れ目沿いに緑色を帯びる。																								
						Bg		bg																											

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					原位置試験 ( 孔内水圧 含む )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																														
															N 値	0	10	20	30												40	50																												
		141	* * * * *	アソサイト	赤灰	Bg	β	2			140.04~140.33m: 傾斜5~30°の微細な割れ目が発達する。一部硬質部が残存するが、上下位に比べてやや軟質である。	0 50 100	CL'																																															
		142									Dg																					3	141.71~142.00m: 傾斜10~30°の割れ目が発達し、細片~細粒化する。岩芯の一部はやや硬質であるが、全体にやや軟質となる。	3																										
		143									Ivg																					β	2			142.00~142.46m: 上下位に比べて割れ目沿いの劣化は軽微であるが、割れ目沿いに細片化する。	8																							
		144									Ivg																									2																								
																																灰	Ivg			143.53~145.46m: 上位に比べて劣化は軽微であり、割れ目は少なくなる。割れ目沿いの細片化、細粒化も軽微となる。傾斜20~30°の割れ目が卓越する。	11																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															( N 値 )	( 値 )																	
							Ng						GM'																				
		146			灰		Ng				145.46~146.17m: 上位に比べて割れ目が多くなり、割れ目沿いの細片化が見られる。145.70~145.90m間には微細な割れ目も見られるが、連続性に乏しい。		CL'																				
							Ng				146.17~146.71m: 上位に比べて割れ目が少なくなり、割れ目沿いの劣化は軽微で、一部の割れ目沿いに細片化が見られる。		GM'																				
					アソライト		Bg				146.71~147.13m: 上位に比べて割れ目が多く、微細な割れ目が亀甲状を呈する。 146.90m: 割れ目沿いに変質し、割れ目周縁部3cmが暗緑色を呈する。																						
		147					bg	β	2		147.13m: 割れ目に暗緑色の熱水変質脈を伴い、割れ目周縁部は暗緑色を呈する。下層部147.20m付近までが脱色し、硬さ「D」に軟質化する。この間、微細な割れ目が発達する。 147.13~149.30m: 赤色を帯びる。傾斜50~70°の割れ目が卓越し、微細な割れ目が発達し、亀甲状を呈する。割れ目沿いの細片化、細粒化が見られる。																						
					赤灰		vg						CL'																				
							Cg				149.30~149.62m: 割れ目沿いの細片化、細粒化が見られ、一部やや硬質部が残存するが、上下位に比べて軟質である。																						
							Bg				149.63~150.00m: 軽微な変質を受け、緑色を帯びる。上位に比べて硬質である。微細な割れ目が見られる。 149.80~149.85m: 傾斜40°、幅40mmで変質し、暗緑色の熱水変質脈を不規則に伴い、暗緑色を帯びる。上下位に比べて軟質で硬さ「D」となる。周囲の磁気部との境界は明瞭である。																						
	99.01	150.00																															



孔番 H24-B14-2 孔

深度 0.00m ~ 18.00m

孔口標高 7.06m





孔番 H24-B14-2 孔

深度 18.00m ~ 36.00m

孔口標高 7.06m





孔番 H24-B14-2 孔

深度 36.00m ~ 54.00m

孔口標高 7.06m

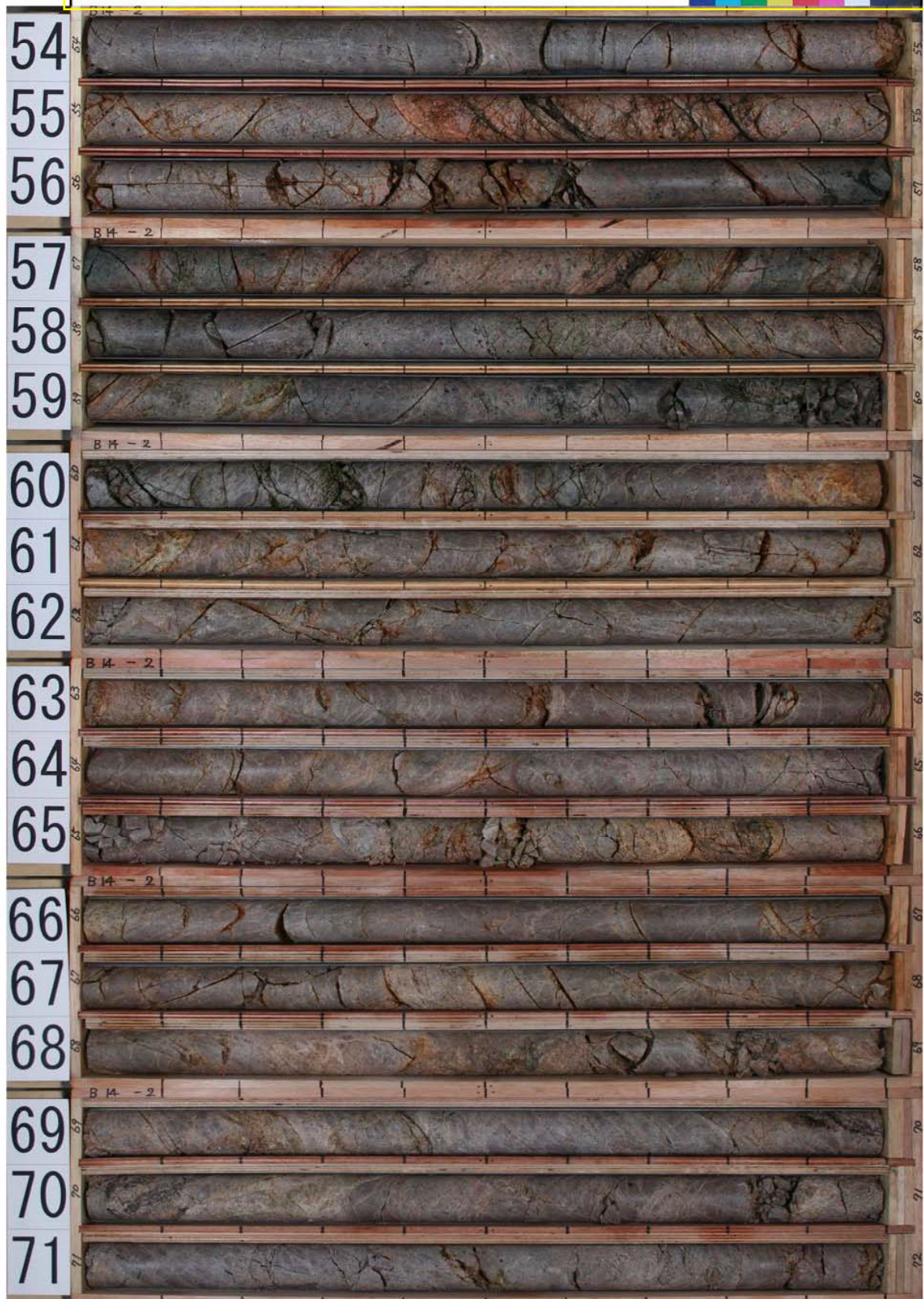




孔番 H24-B14-2 孔

深度 54.00m ~ 72.00m

孔口標高 7.06m

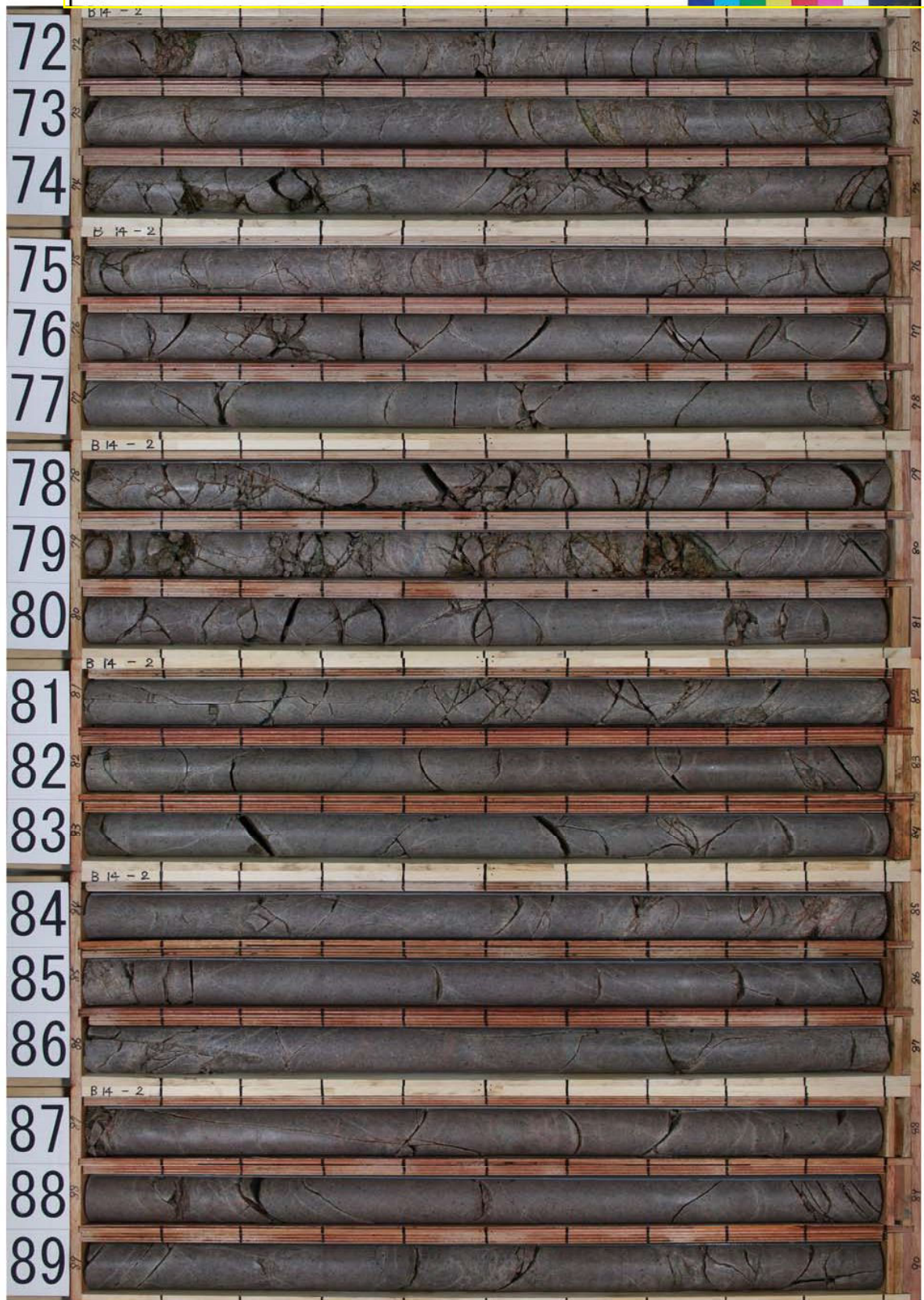




孔番 H24-B14-2 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

孔口標高 7.06m

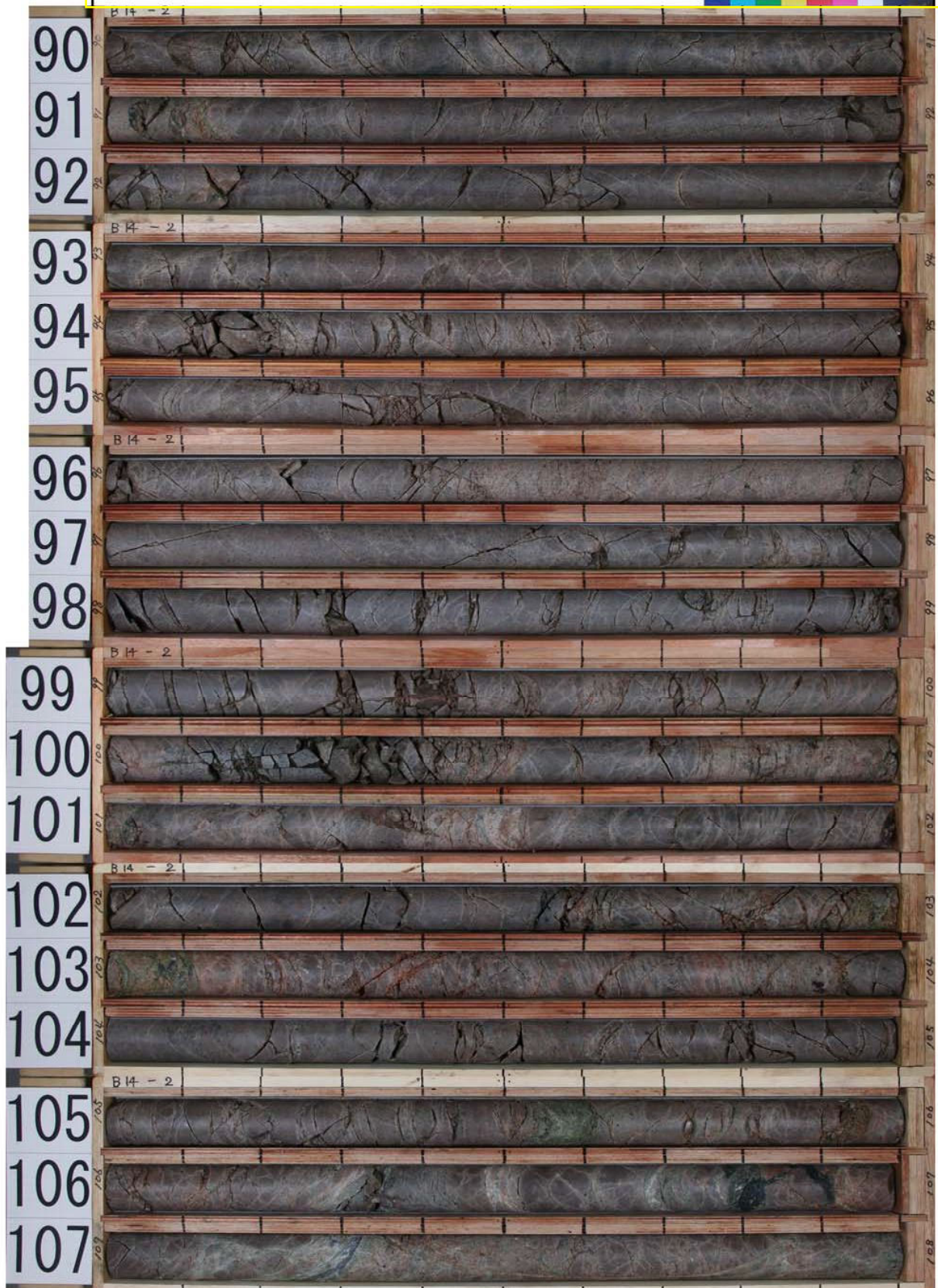




孔番 H24-B14-2 孔

深度 90.00m ~ 108.00m

孔口標高 7.06m

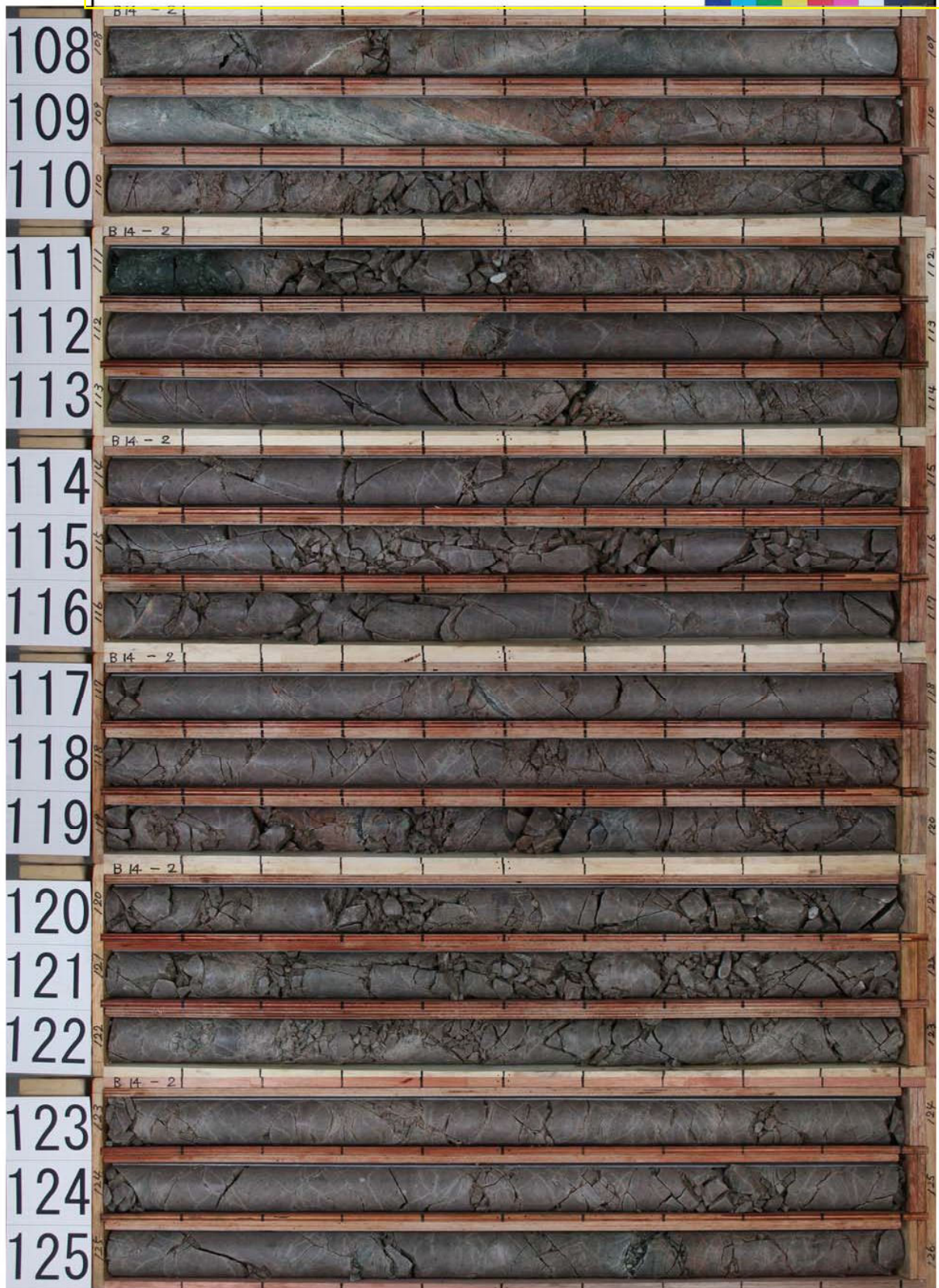




孔番 H24-B14-2 孔

深度 108.00m ~ 126.00m

孔口標高 7.06m





孔番 H24-B14-2 孔

深度 126.00m ~ 144.00m

孔口標高 7.06m



孔番 H24-B14-2 孔

深度 144.00m ~ 150.00m

孔口標高 7.06m



余白



H24-D1-3

余白